

一橋大学

スポーツ研究

2022

Vol.40

スポーツの社会科学的研究のこれまでとこれから

目次

はじめに 中村 英仁 ... 1

I. 第1回一橋スポーツ科学研究会報告

第1回一橋スポーツ科学研究会について 岡本 純也 4

テーマ1: 「地域」と「日常」から問い続ける、日本のスポーツ政策のこれまでとこれから 6

報告者: 青野 桃子、笹生 心太、金子 史弥

討論者: 尾崎 正峰

司会: 鈴木 直文

1. 日本のスポーツ政策のグラデーション—産業化・市場化の複雑性 9

1) 先行研究: 国家レベルの地域スポーツ政策に関する先行研究の概要

2) 尾崎先生の地域スポーツ政策研究

2. 「非日常の過剰、日常の貧困」を問い続ける——日本のスポーツ政策における

「オリンピック中心主義」からの転換と地域スポーツ文化の発展を目指して 12

1) 尾崎先生のオリンピック研究の概要と位置づけ

2) ロンドン2012大会と東京2020大会の比較

3) まとめにかえて——スポーツ政策研究の視点からオリンピック開催の意味を考える

3. まとめ 19

4. コメントへのリプライ 19

5. 質疑応答 30

6. 略歴と著作 (尾崎正峰) 35

テーマ2: 方法としてのスポーツ史 41

報告者: 黒須 朱莉、鈴木 楓太、富田 幸祐、熊澤 拓也

討論者: 坂上 康博

司会: 坂 なつこ

1. 坂上先生の方法論的特徴～社会的な文脈とスポーツ固有の文脈との「絡み合い」～ 41

2. 坂上先生によるスポーツの社会史的把握——3つの著作を中心に—— 46

1) 『権力装置とスポーツ: 帝国日本と国家戦略』

2) 『につぼん野球の系譜学』

3) 『昭和天皇とスポーツ: <玉体>の近代史』

3. こうしたアプローチはどのように形成されたのか	50
4. コメントへのリプライ	50
5. 質疑応答	57
6. 報告者コメント	63
7. 略歴と著作 (坂上康博)	64

II. 個別研究

企業陸上部のあるべき未来展望に関する試案 (ある講演の記録)	中村 英仁	73
「歩行」に関する言葉の語誌的研究		
—1990年代に急上昇したウォーキング実施率 についての— 考察—	武井陽太郎	88
明治期における講道館柔道の普及状況および名称の使用実態—『国土』刊行期を中心に—	佐用 海輝	101

III. ゲスト研究会報告

ラファエル・ヴェルシェール著『トライアスロンの哲学 鉄人たちの考えごと』を翻訳して	加藤 洋介	110
---	-------	-----

2020 ～ 2022年度研究会日誌	123
--------------------	-----

編集後記